大野定子詠草大小十六冊の内

六星の小草

洋学文庫
文庫8
A180
8

昭和26年12月10日寄贈
大槻茂雄氏

たち毎りこうりしきてく弱園り本代あまこうけらくしきの寿

名不霧日高さ

橘弁を解えそれいこれ彫山世務まるこりも霧に世こり

月に彫の梅にてこうる一さもの云をちまこうこと霧こうな

一年しかの梅園りて

なつしき人多きそそくとわくれい降つる計り梅薫るし

鶯

たらちねの雅れいさめのうちねをいさおきて新しく鶯の伝く

鶯の出とりくなりたいまたはてくれらむものの心の才の

うくひきの寿り匂はしい梅のとるれりものたちしおりしうすらむ

我つの梅れをこうさけりつくる鶯なりけしこうのあやおる

梅もとさりしなるありをしつめてきまこうれつき鶯のなく

梅弁を

梅もしの霧れおこうはやうしく梅の色れつなく匂へ

青梅のいともうかなりも霧に匂いけ世をおとうさりしわ

宮を月

月くり霧倫つるたれらの月ハまとうふしてなれりしかけ

社路を

神の出れ多ねのこそなりてたかりて花咲にしるを

里人の出さうつまとる 姫井の姫ふ（いしのもらう）社の花さまりしかわ

人待節云

[illegible]

山連樹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山家新樹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春　百三十三
夜　六十五
秋　百三
冬　六十八
報　百三十三
　　五百

[illegible]

[illegible]

山家松風

[illegible]

[illegible]

夏祐之記

[illegible]

[illegible]

平折

衣くりいとうたれ形しくれるねの袖口に絡るうぶの光と本

情筆冬

えこうるやうり才もたまにおくらかきいさのこ情とくたりしものを

除程絡を

いくのねとゆるいたまと絡ちるらゝ斗いおのをけりくわ

冬日

出とつゝまたまくぬねはおくそひてゆの日見はくいそ覚

冬程

下さまをねるをねゆの光とりねも心やまとまのみにしてく

冬採花

冬の程は出とりふ絡の花のこし採花をしてふをとる外を程

冬社路

花をまもりてをやさしくしてる社の方のゆくは神さひしくわ

冬山石

ひらねらまこらかりうち絡る宋のとのしいて宮をとましたりける

冬雨

宵のうけ宮ハしくれし降るへてなまくうれをあらはる年

冬秋

まるにこれはしるくれねしをそてゆきおりしてねふ犬の子

大賜文庫

大槻文庫